

## 蒲郡市民病院新棟等施設整備の考え方

### 1 基本方針

- (1) 災害・感染症発生時に対応できる施設整備
  - ・ 大規模災害時にも病院機能を維持できるよう、災害拠点病院相当の機能を目指します。
  - ・ 新興感染症等の拡大時において、軽症患者から重症患者までの入院治療を想定した整備とします。
- (2) 既設病院施設との連携に配慮した施設整備
  - ・ 既存棟と渡り廊下で接続し、新棟と既存棟で効率的な運用が可能となるよう設計すること。
- (3) 将来の変化に対応できる施設整備
  - ・ 将来の医療ニーズの変化や、地域の基幹病院としての役割の変化に対応しやすい施設を目指します。
- (4) 経済性及び環境に配慮した施設整備
  - ・ 維持管理の省力化や省エネルギー化によりライフサイクルコストが抑制できる経済性の高い施設とします。
  - ・ 地球環境に配慮した施設整備を行います。
- (5) 職員にやさしい施設整備
  - ・ 働きやすい職場環境で福利厚生施設を充実させ、職員が働きたいと思える職場環境を整備します。

### 2 建築計画

- (1) 建築規模
  - ・ 延床面積 : 最大 9,000 m<sup>2</sup>
  - ・ 階数 : 地上 5 階
- (2) 階層計画
  - ・ 新棟は地下階を設けず、地上 5 階建を想定。

- ・ 患者の利便性や既存棟の医療機能の連携と効率性を考慮し、新棟の低層階に眼科（アイセンター）、生理検査、リハビリテーション等の診療部門や健診センターを配置し、上層階には、医局や会議室等の管理部門及び災害時のための備蓄倉庫や救護訓練スペース等の配置を想定しているが、より合理的な自由提案を拒むものではない。

### (3) 接続計画

- ・ 新棟は、1階及び2階で既存棟と接続する。
- ・ 接続箇所は、1階は4か所（既存の小児科、産婦人科、画像診断、放射線治療室の待合廊下）、2階は2か所（既存棟の管理部門、検体検査部門の廊下）を想定している。

## 3 各部門計画

- ・ 各部門の運営方針、整備方針、施設整備条件については「蒲郡市民病院新棟建設に伴う機能強化基本計画」の「第2章 部門計画」を参照のこと。
- ・ 下表に新棟及び既存棟改修部門の参考面積を示すが、各部門の配置を含め、基本設計での検討を踏まえて決定する。

## (1) 新棟

部門	面積 (㎡)	備考
眼科（アイセンター）	210	移設・拡張
産婦人科	270	移設
小児心理発達・精神科	150	移設
生理検査室	330	移設・拡張
リハビリテーション	760	屋外訓練スペースを除く
健診センター	350	移設・拡張
医局関連	1,200	医局、研修医室、研修室、職員 休憩室、図書室、症例研究室
集合更衣室	380	クリーニングの受渡スペースを 含む
講堂・会議室・講師控室	400	新設
備蓄倉庫	260	備蓄倉庫（大）は 140 ㎡ 備蓄倉庫（小）は各階に配置
ユーティリティスペース 1	120	新設
ユーティリティスペース 2	660	新設
ユーティリティスペース 3	220	新設
救護訓練スペース	300	新設
臨床研究推進スペース	700	新設

## (2) 既存棟（改修後）

部門		面積 (㎡)	備考
1 階	救急外来	460	拡張
	血管造影室	120	増設
	内視鏡センター	320	拡張
	中央処置室	170	拡張
	患者支援センター	150	拡張
	一般外来	—	見直し再配置・一部拡張
2 階	化学療法室	540	移設・拡張
	ME センター	260	拡張
	職員休憩室・会議室	330	増設

## 4 構造計画

- ・ 南海トラフ巨大地震等の大規模地震にも耐える構造とします。
- ・ 耐震安全性の目標は、災害時に必要な医療機能を維持し、医療活動を継続することを念頭に、「官庁施設の総合耐震・対津波計画基準」（国土交通省）に定められている「(五) 病院であって、災害時に拠点として機能すべき官庁施設」に対応する基準を採用する。
- ・ 変化への対応を考慮し、ロングスパンや内部空間がフレキシブルに利用しやすい構造を積極的に採用する。

## 5 設備計画

- ・ 病院機能の維持を最優先とし、合理的でかつ効率の良い設備計画とする。
- ・ 基幹インフラは、既存棟との連携を図り、可能な限り既存設備を有効利用する。熱源等の更新を前提に計画する。
- ・ ライフサイクルコストの低減や施設の維持管理に配慮した計画とする。
- ・ エネルギー棟の熱源に頼らない個別空調等の導入も検討すること。
- ・ 「災害拠点病院指定要件（最新改正日令和元年7月17日）(2) 施設及び設備」の水準での整備を目指す。

(1) 新棟

ア 電気設備

電力引込設備	・ 既存のエネルギー棟から新棟へ配線を行います。
受変電設備	・ 既存のエネルギー棟の設備から受電します。 ・ 必要に応じて、新棟内に電気室を設ける。
非常用発電機設備	・ 既存のエネルギー棟の発電機を更新します。
コンセント設備	・ コンセントは部屋の用途や目的に応じ設置します。 ・ 目的に応じ、発電機での電源供給が可能な保安回路で設置します。
情報設備	・ 医療用ネットワークと患者の利便性を目的に、Wi-Fi アンテナを敷設します。
トイレ呼出設備	・ 患者の利用するトイレに設置して、既存棟守衛室と接続します。

イ 給排水衛生設備

給水設備	・ 水源は、既存市水利用とします。 ・ 災害発生時を考慮して受水槽を設置します。
排水通気設備	・ 特殊排水系統（検査系排水等）は、系統分けの排水計画とします。
衛生器具設備	・ 感染対策及び災害発生時を考慮して整備します。
医療ガス設備	・ 必要箇所への設置に加え、災害発生時のスペースの利用を考慮して整備します。

## ウ その他

空気調和設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境配慮や保守管理の容易性、維持管理や更新コストの低減を考慮したものとしします。</li> </ul>
防災・セキュリティ関連設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存防災センター内の中央監視装置設備等と接続します。</li> <li>・必要な箇所に監視カメラ等の設置を検討します。特定のエリアのセキュリティ設備等の導入を検討します。</li> </ul>
昇降機設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベッド等が積載できる大型のものを含め適正数を設置します。地震等の災害時における早期復旧に考慮した安全性や信頼性のある設備としします。</li> </ul>

## (2) 既存棟

### ア 電気設備（既存改修）

電力引込設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新棟及び既存棟の医療機器増設等の需要に対応した設備に見直します。</li> </ul>
受変電設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新棟及び既存棟の医療機器増設等の需要に対応した設備に見直します。</li> </ul>
非常用発電機設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新棟及び既存棟の医療機器増設等の需要に対応した設備に見直します。</li> <li>・発電機は連続 72 時間（3 日間）運転可能な仕様（備蓄燃料含む）としします。</li> </ul>
幹線・動力設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新棟及び既存棟の医療機器増設等の需要に対応した設備に見直します。</li> </ul>

### イ その他（既存改修）

給排水衛生設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的に機器、器具類は既設再利用としします。必要に応じて感染や災害対応時を考慮した整備を実施します。</li> </ul>
空気調和設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脱炭素の推進とライフサイクルコストの低減の実現目指し熱源等の設備を更新を検討します。</li> </ul>
昇降機設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制御機能のリニューアルや更新工事等の設備更新を進めるとともに既存不適合を解消します。</li> </ul>

## 6 災害対応

- ・ 災害時の患者収容スペースや災害対策本部設置スペース等は、平時の空間用途からの切り替えを想定し、整備します。
- ・ 健診センター等の来院者が使用する新棟の入口は、災害時の患者受入れの入口として、また、駐車場との間に位置する外部空間は、災害時の作業スペースとして活用を検討します。
- ・ リハビリテーションや健診センターは、感染拡大時の感染症患者収容を想定し、入口からの動線分離や簡易陰圧装置等の設置を検討します。
- ・ 電力、水道等インフラの途絶に備えた設備を整備します。
- ・ 被災地における自己完結型の医療に対応出来る各種備蓄品を保管できる備蓄倉庫を整備します。

### 【新棟の平常時と災害時のスペース切替イメージ】

階	平常時	災害時	必要設備
3 階	講堂	・ 災害対策本部室	・ 衛星電話
	ユーティリティスペース 1	・ 支援看護師の休憩・宿泊室	・ 非常用電源
	ユーティリティスペース 2	・ 在宅酸素利用者・要介護者収容スペース	・ 医療ガス ・ 非常用電源
	ユーティリティスペース 3	・ 行政支援者の休憩・宿泊室	・ 非常用電源
	救護訓練スペース	・ 行政支援者の休憩・宿泊室	・ 非常用電源
	研修・シミュレーションセンター	・ 医師等の休憩・宿泊室	・ 非常用電源
	職員休憩室	・ DMAT 等の休憩・宿泊室	・ 非常用電源
2 階	リハビリテーション	・ 患者治療スペース	・ 簡易陰圧装置 ・ 医療ガス ・ 非常用電源
1 階	健診センター	・ 患者治療スペース ・ 隔離診察室	・ 簡易陰圧装置 ・ 非常用電源

## 7 ゼロカーボン計画

- ・ 蒲郡市では2021年3月に、2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」の実現に向け、市民の皆様と一体となって取り組むことを宣言しました。
- ・ 平時だけではなく災害時のBCP対応も念頭に、病院全体で消費するエネルギーを減らす「省エネ」、クリーンなエネルギーを創る「創エネ」、様々なエネルギーシステムで非常時に備える「蓄エネ」等を推進します。

## 8 配置計画

- ・ 新棟の増築にあたり、敷地と既存棟の現況から既存棟の西側へ配置します。